

## 女性医師支援センター便り

## 宮城県医師会 令和4年度医学生・研修医支援セミナーの報告



宮城県医師会常任理事

宮城県医師会女性医師支援センター副センター長

福 與 なおみ

1月18日（水）に宮城県医師会館で、令和4年度医学生・研修医支援セミナーがWeb開催されました。

橋本省宮城県医師会女性医師支援センター長の挨拶では、本セミナーの主旨（女性医師支援センターという名ではあるものの、女性医師のみならず、性別にとらわれない医師全体の支援が目的）が紹介されました。

引き続き宮城県医師会女性医師支援センター委員で、みちよレディースクリニック院長の倉片三千代先生の座長のもと、3人の先生方に「キャリア形成のヒント～私の選んだ道VI～」というテーマのシンポジウムでご講演いただきました。

気仙沼市立本吉病院院長の齊藤稔哲先生は、「医師の道は一つではない～紆余曲折も楽しい～」という演題名で、大学をご卒業されてからの約30年間の経緯をお話しされました。研修医→小児科医→農家→研修医→山奥の診療所勤務→保健福祉行政従事→被災地での医療に従事という、本当に医師としては極めてまれなキャリアに聴衆の方も聞き入っていたことと思います。コロナ禍で焦りや不安の多い医学生や研修医には、齊藤先生の『最短距離で結果をだそうとあせらなくてもよい。』という言葉は、とても勇気づけられたのではないかと思います。また、個人的には、「医師という仕事は生きるということを考え続けていくこと」という齊藤先生の言葉にとっても感銘を受けました。

東北公済病院乳腺外科医長の佐藤章子先生は、「日本乳がん学会の働き方検討委員会の取り組み」という演題名で、ご自身の妊娠・出産といったライフイベントと、現在のライフワークにつ



セミナー風景

いてお話しされました。現在、東北で最多のハイボリュームセンターで常勤乳腺専門医として第一線で診療され、さらに日本乳癌学会の働き方委員会委員としてアンケート調査や学術集会でセッション企画をするなど、多岐にわたり活躍されている佐藤先生です。が、実は一度は外科医を断念し、休職して育児に専念した時期もあったという話は、聴衆の皆さんにとって大変興味深かったのではないのでしょうか。多くの方の支えでキャリアを継続できたとおっしゃっていましたが、佐藤先生ご自身のやる気と努力、周囲への感謝の気持ちがあるからこそ、周囲からの理解と協力を得られたのだと思います。その点を、医学生や研修医の先生には理解してほしいと感じます。



佐藤 章子 先生

東北大学大学院医学系研究科発達環境医学分野教授の大田千晴先生は、「将来の小児科医を考える」という演題名で、これまでのキャリア形成の過程、現在のメインの仕事内容であるエコチル調査の紹介、小児科関連の新たな取り組みについてお話しされました。敷かれたレールに乗っかるのではなく、常に自分を高めるための到達点に向かってレールを敷いていく大田先生のキャリア形成の過程に、聴衆の先生方は大変驚かれたのではないのでしょうか。単身でお子さん連れての基礎研究のためのドイツ留学、新型コロナウイルス感染症の小児患者リエゾン、小児救急in Tohokuの立ち上げなどをとても楽しく話されていましたが、伴った苦労や大変さは想像を絶します。自分の気持ちの持ちよう、いろいろなことに取り組めるチャンスがあることを、医学生や研修医は学べたと思います。

NO PHOTO

大田 千晴 先生

シンポジウム終了後は特別講演で、東北大学病院輸血・細胞治療部副部長／准教授である藤原実名美先生の座長のもと、田畑雅央先生に特別講演をしていただきました。東北大学病院医療安全推進室長 特命教授／東北大学病院内科専門研修プログラム副責任者である田畑雅央先生には何度もこのセミナーにご参加いただいております。今回は「専門医制度について」大変わかりやすく丁寧に解説してもらいました。いろいろな面で複雑な現行の専門医制度です。そのような制度を理解しなければならぬ研修医の大きさが推測されます。田畑先生は、その点を見越して、研修中にどのような点に気をつければ良いか、特に研修開始時の注意点なども解説してくださったので、医学生や研修医にとって非常に有意義なお話だったのではないかと思います。また、今回は基本領域終了後のサブスペシャリティ研修についてもふれてもらいました。

NO PHOTO

田畑 雅央 先生

新型コロナウイルスの影響で、一時期どの病院も医療ひっ迫の状況、特に、院内の医療従事者のマンパワー不足は深刻で、本セミナーの令和4年度の開催は危ぶまれました。しかし、各方面の先生方の協力を得て年明けのこの時期に何とかWebで開催することができました。お忙しい中ご講演を引き受けてくださった先生方、座長の先生ありがとうございます。そしてなにより、参加してくださる方がいないと、セミナーは存在しません。お忙しい中参加してくださった聴衆の皆さまが、参加してくださったことにお礼を申し上げると同時に、本セミナーが明日からの皆さまの活動のモチベーション向上につながれば大変うれしく思います。